

エンビプロ グループ サステナビリティレポート

Sustainability Report 2021



回れ、巡れ、喜び



持続可能社会実現の一翼を担う

エンビプロ グループは、ミッションステートメントとして「持続可能社会実現の一翼を担う」を掲げています。

ミッションステートメントは、当グループが事業を通じて社会にどのような貢献をしていくのか、その存在意義を示したものです。

このミッションに共感する仲間に向けた「共に実現していこう」というメッセージでもあります。

Contents

02	目次・編集方針
03	コーポレートビジョン
04	トップメッセージ
05	価値創造の歴史
06	サステナビリティ戦略
06	価値創造のプロセス
08	SDGsへの取り組み
09	アクションプラン
11	資源循環事業
17	グローバルトレーディング事業
20	リチウムイオン電池リサイクル事業
21	その他事業
23	ESGの取り組み
23	環境
26	社会
28	ガバナンス
32	コーポレートデータ
32	会社概要・グループ会社紹介
33	財務・非財務ハイライト
34	活動拠点

編集方針

本レポートは、(株)エンビプロ・ホールディングスが発行するサステナビリティレポートとなります。エンビプロ グループの企業理念や、事業戦略・環境・ガバナンスなどに関する非財務情報全般にわたる取り組みをご紹介します。さらに、今後の計画を含む将来の見通しについても一部ご紹介しています。

報告対象範囲

(株)エンビプロ・ホールディングスと以下グループ会社9社を報告対象としています。(株)エコネコル、(株)NEWSCON、(株)3WM、(株)クロダリサイクル、(株)しんえこ、(株)アストコ、(株)東洋ゴムチップ、(株)ブライトインベーション、(株)VOLTA

報告期間

2020年7月～2021年6月（活動内容、計画については、一部それ以降も含みます）

回れ、巡れ、喜び

資源循環事業のリーディングカンパニーとして 持続可能社会実現の一翼を担う

不要物を回収して再資源化する、そして再生された資源が巡り、
誰かの社会生活を支え、誰かの喜びに繋がっていく。

それは、私たち自身の喜びでもあり、未来へ推進するための原動力。

創業から変わらず、基幹事業として取り組み続ける資源循環事業を
これからも追求し、責任を果たし続けることが私たちの使命です。

資源循環事業のリーディングカンパニーとして

エンビプロ グループが必要とされる存在であり、成長し続けることが
持続可能社会の実現につながっていくと確信しています。

「回れ、巡れ、喜び」

すべてのステークホルダーとともに、喜びの環を回しつづけること。

それが、エンビプロ グループの願いであり、未来への約束です。

Corporate philosophy

創業企業 そうぎょうきぎょう

つねに社会にとって必要な事業を創造しつづける

日々創業 … 初心を大切に日々創業精神で仕事をする

歴代創業 … 代々初代の志を持って新事業を創造する

全員創業 … 全社員が自分に合う第一人者の道を拓く

循環企業 じゅんかんきぎょう

助け合い、活かし合い、分かち合う喜びの環を回しつづける

快労 …… 助け合い、補い合って気持ちよく働く

活財 …… あらゆるもののいのちを活かして使い回す

還元 …… 利益や喜びを共に生きる人たちと分かち合う

求道企業 ぐどうきぎょう

永遠につづく企業の道、人の道を追求しつづける

選難の道 … 安易な道を選ばず求められる道を歩む

独自の道 … 特質を生かし人のやらないことをやる

感謝の道 … 生かされていることに感謝し慢心をしない

※監修 未来デザイン研究所 えにし屋 清水義晴氏

2004年3月20日制定

[トップメッセージ]

グループ一丸となって 「持続可能社会実現の一翼を担う」役割を 果たしていきます。



世界は今2050年の脱炭素社会実現に向けて一斉にそして急速に動き始めました。その流れを受けて多くの大企業が脱炭素経営への具体的な取り組みをスタートさせました。その対象は当該会社内にとどまらず仕入れ先から廃棄先までを含むサプライチェーン全般に及び始めています。それが資源循環（サーキュラーエコノミー）の動きと相まって、リサイクル業界に脱炭素生産プロセスを備えた製造業への変革を求めています。

当社は2018年にRE100を宣言し、2020年には2050年カーボンニュートラル宣言をしてその具体的な取り組みを早々に始めました。現在当社は工場（Scope1,2）で使う電力の約95%を再生可能エネルギーで賄っています。CO₂の視点で見ると当社では電力由来のCO₂排出量が全体の約65%を占めているので、今年度は約60%のCO₂排出量を削減できる見込みです。

一方資源循環（サーキュラーエコノミー）の動きは当業界に適正処理の領域からものづくりに精通した製造業へ転換を促しています。それはQ（品質）C（コスト）D（納期）で一流の製造業に匹敵する力を身につけていくことを意味します。当社はそれにC（カーボンニュートラル）を加えたQCDCというコンセプトで脱炭素社会に相応しい新たなリサイクル業の姿を目指していきます。そして地上資源（都市鉱山）由来の素材メーカーに変革し、当社のミッションである「持続可能社会実現の一翼を担う」を成し遂げていきます。

もちろんその挑戦を社員の皆さんとともにトコトン楽しみながら。

人生はニコニコ顔の命がけ（平澤興先生の言葉）

前へ MYWAY 前へ。

代表取締役社長

佐野富和

次代の先駆け。進取、革新、挑戦の軌跡。

戦後まもなく創業し、日本はやがて高度経済成長期へ。当時は未だ「循環型社会」「持続可能社会」という言葉が浸透していない時代、いち早く、資源リサイクルや環境ビジネスの重要性を確信。

次代を先取りした積極的な事業展開で急成長し、活躍のフィールドは全国、そして世界へ。

エンビプロ グループは、サーキュラーエコノミーの実現を牽引するリーディング企業として未来に向け『持続可能社会実現の一翼を担う』ミッションの遂行に挑み続けます。

1950 - 1999

大いなる飛躍。
事業拡大への基盤。

1950年 3月 佐野勝喜(当社代表取締役社長 佐野富和の実父)が佐野マルカ商店を静岡県富士宮市にて創業



1978年 7月 資本金2,000万円で株式会社佐野マルカ商店に改組

1989年 7月 経営計画による経営開始

1992年 8月 貿易事業を開始

1997年 6月 本社工場に大型シュレッダー設備を導入



2000 - 2009

全国、そして世界へ。
次々と広がるグループ展開。

2000年 4月 株式会社富士通ゼネラルとの合併により株式会社富士エコサイクルを設立

2000年 7月 株式会社佐野マルカ商店から株式会社佐野マルカに商号変更

2001年 7月 プラスチックリサイクル事業を開始

2001年 8月 RPF工場(固形燃料製造工場)設置

2003年12月 株式会社ユー・エス・エスとの合併により株式会社アビツを設立

2004年11月 企業理念制定
自動車リサイクル法ASR(自動車シュレッダーダスト)の再資源化施設として自動車リサイクル法大臣認定を取得

2006年 7月 中古自動車および中古自動車部品輸出事業を目的に株式会社3WMを設立

2007年 7月 株式会社佐野マルカから株式会社エコネコルに商号変更

2008年 2月 株式会社3WMにてJAPAN COAST USED CARS AND SPARE PARTS TRADING(UAE)設立

2008年 6月 資源リサイクル事業を行う株式会社クロダリサイクルの株式を100%取得し子会社とする
株式会社3WMにて3WM CHILE IMPORT EXPORT LIMITADA(チリ)設立

2010 - 2015

エンビプロ・ホールディングス設立。

2010年 5月 純粋持株会社移行のため株式会社エコネコル・ホールディングス(現:株式会社エンビプロ・ホールディングス)を設立

2010年 7月 株式会社エコネコル・ホールディングスから株式会社エンビプロ・ホールディングスに商号を変更
2011年 4月 資源リサイクル事業を行う有限会社リサイクルサポートサービス(現:株式会社しんえこ)の株式を100%取得し子会社とする

2012年 5月 株式会社3WMにて3WM UGANDA LIMITED(ウガンダ)設立(2021年9月事業再編により撤退)

2013年 9月 東京証券取引所市場第二部に株式を上場

2013年12月 障がい福祉サービスを目的として、株式会社エコミット(現:株式会社アストコ)を設立

2015年 2月 株式会社エコネコルにてホーチミン駐在事務所(ベトナム)開設

2015年12月 廃ゴムリサイクルおよびゴム製品製造販売事業を行う株式会社東洋ゴムチップの株式を100%取得し子会社とする

2016 - 2021

電池事業へ果敢に挑戦。

2016年 4月 環境経営コンサルティング事業を展開する事を目的として、株式会社ブライトイノベーションを設立

2016年10月 株式会社エコミットから株式会社アストコに商号変更
2017年 4月 木質系バイオマス燃料の安定した調達を目的として、MINE BIOMASS SYNERGIES PRIVATE LIMITED(シンガポール)に出資実行

2017年 9月 監査等委員会設置会社に移行
2018年 1月 リチウムイオン電池リサイクル事業を目的として、株式会社VOLTAを設立

2018年 6月 東京証券取引所市場第一部に株式を上場



業界初の
東京証券取引所上場
※2013年 二部
2018年 一部

2018年 7月 RE100に加盟
2019年 5月 TCFD提言に賛同
2019年10月 株式会社エコネコルにて欧州駐在事務所(イギリス)開設
2020年 4月 株式会社エコネコルの貿易事業を承継し、株式会社NEWSCONを設立

2022 - 2050 30年先の未来図。完全なる脱炭素社会の確立へ。

サステナビリティ戦略01 | 価値創造プロセス

長期トレンド

GX

グリーントランスフォーメーション

温室効果ガスを発生させない再生可能エネルギーへの移行をはじめとした先進的な取り組みを通じて、産業構造や社会経済を変革し、経済活動を停滞させることなく脱炭素社会を実現することで、企業や社会のさらなる成長につなげる。

DX

デジタルトランスフォーメーション

激しい社会の変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立する。

中期・短期トレンド

環境課題

カーボンニュートラルの進展 + サーキュラーエコノミーの進展 + プラスチック資源循環促進法
グリーンマテリアル需要の急拡大とサーキュラーエコノミーの急加速

01 電炉増設による鉄スクラップの需要増加

鉄鋼製造プロセスの脱炭素化が求められる中、高炉と比較してCO₂排出量が1/4の電炉設備の増設が計画され鉄スクラップ需要の増加が見込まれる。

02 電化による非鉄金属・レアメタルの需要増加

再生可能エネルギーおよび電化の促進で蓄電池や電化製品で使用する鉱物資源の再資源化が必要となる。

03 廃プラスチックの高度な資源循環促進

大量に生産・消費・廃棄され社会課題となっている廃プラスチックについては、使用量削減、再資源化による資源循環が求められている。

社会課題

ポストコロナ（非対面・非接触の生活&ビジネススタイル） + 米中貿易摩擦 + 就労人口の減少

マテリアリティの
特定

01 サプライチェーンにおけるグリーンマテリアルの生産と供給

02 経営活動の全てのプロセスでGX、DXの推進

03 就労形態の多様性推進と省人化・無人化の促進

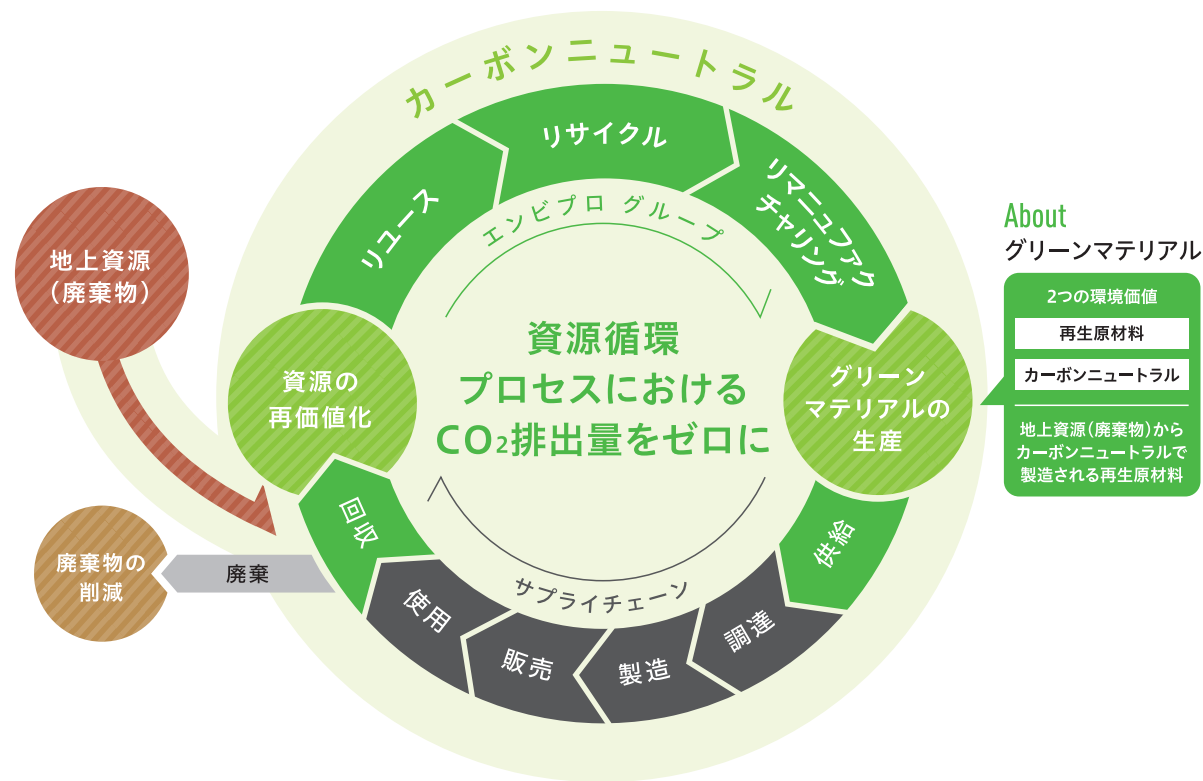
サステナビリティ戦略01 | 価値創造プロセス

カーボンニュートラルをベースにしたサーキュラーエコノミーモデルの構築で、
経済的価値、環境的価値、社会的価値の向上を目指す。

エンビプロ グループのサーキュラーエコノミーモデル

エンビプロ グループの
中期経営計画低炭素プロセスによる
地上資源由来の
素材メーカーに革新
(QCDC)

Q(品質)C(コスト)D(納期)に加え、
C(カーボンニュートラル)の要素
を反映させた高水準の製造プロ
セスの確立を目指します。

エンビプロ グループの
基盤

企業理念

- ・技術力
- ・営業力
- ・物流力
- ・回収力
- ・発想力
- ・生産力
- ・販売力

事業活動で実現する未来のあるべき姿

01 経済的価値

02 環境的価値

03 社会的価値

Mission statement

持続可能社会実現の一翼を担う

サステナビリティ戦略02 | SDGsの達成に向けた様々な取り組み

エンビプロ グループのSDGsの考え方

エンビプロ グループでは、その事業特性と「持続可能社会実現の一翼を担う」というミッションステートメントに整合する SDGsを洗い出し、それらを中心とするSDGsの達成に向けた様々な活動に取り組んでいます。

すべての取り組みを、すべてのパートナーと共に

SDGsの達成に向けて、グループはもちろんサプライチェーンを構成する企業や行政機関、地域社会、市民との協働を進めていきます。



● パートナースhip

企業グループや国際イニシアチブへの参加を通して、持続可能な社会の実現に向けたパートナーシップを拡大しています。

■ JCLP(日本気候リーダーズ・パートナーシップ)

■ RE100 ■ CDP※1スコアリングパートナー

■ CLOMA(クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス)

※1 CDP：気候変動対応情報の開示に関する国際イニシアチブ

経済への貢献

ECONOMY

- 貧困
- 技術革新



1. 資源循環事業をはじめとする事業活動の効率化と収益性の向上により、社員の収入の増加と生活水準の改善を目指します。



9. (株)エンビプロ・ホールディングスの研究室では、廃リチウムイオン電池からレアメタルであるコバルトおよびニッケルを湿式製錬で、高純度に回収する技術の開発および分析精度向上に取り組んでおり、サーキュラーエコノミーや脱炭素社会の根幹をなす技術の発展に貢献しています。

社会への貢献

SOCIETY

- 健康
- 教育
- ジェンダー
- 労働環境
- 平等
- まちづくり



3. 安全や環境基準を満たした工場での適正処理により、土壌汚染および水質汚染を防止しています。また、COVID-19の拡大防止および社員の感染防止の一環として、在宅勤務やフレックスタイム制度などの新しい働き方を推進しています。



4. 社員を対象としたビジネススクールを開催するなど、社員のスキルアップのための様々な研修制度を設けています。



5. 時短正社員制度や在宅勤務などの制度を導入し、子育てや介護中の社員などが最適な働き方を選択できる環境を提供しています。



8. (株)エンビプロ・ホールディングスでは2019年度から新卒採用を開始し、従来から取り組んでいる障がい者雇用と併せて、様々な人の働きがいのある雇用を推進していきます。また、工場での労働災害防止に徹底して取り組み、社員の安全を守っています。



10. 就労移行支援事業や就労継続支援B型事業などを通じて、障がいのある方々が質の高い仕事を継続して行えるよう支援を行っています。



11. 「しんえこプラザあづみ野」では、各家庭で発生した廃棄物や不用品の回収・リサイクルを行うほか、工場において障がい者の雇用を推進しており、リサイクルと雇用を通して地域の活性化と持続可能なまちづくりに貢献しています。

環境への貢献

BIOSPHERE

- エネルギー
- 気候変動
- 消費と生産
- 海洋資源



7. 2018年7月に「RE100」※2に加盟し、2030年までに事業活動で消費する電力を100%再生可能エネルギーにする目標を掲げています。各工場で使用する電力を、再生可能エネルギーに切り替えるほか、工場の屋根に太陽光パネルを設置するなど、再生可能エネルギー発電設備の導入にも取り組んでいます。また、東南アジアにPKS(パーム椰子殻)の集荷ヤードを設置し、国際流通を推進しています。今後は木質ペレットなどの扱いを拡大することで、持続可能なバイオマス燃料の供給に貢献していきます。

※2 RE100：100% Renewable Electricityの通称。事業運営に要する電力を100%再生可能エネルギーで調達することを目標に掲げる企業が加盟する国際イニシアチブ



12. 金属スクラップや廃棄物から貴金属などを取り出すリサイクル事業や、再生原材料の製造を推進するリマニュファクチャリング事業を推進することで、限られた資源の循環と廃棄物の削減に貢献しています。



13. 2050年までのカーボンニュートラル達成を目標に掲げ、事業活動からのCO₂排出量の削減を推進していきます。また、主力事業であるリサイクル・リマニュファクチャリングを通して、サプライチェーン全体での排出量削減にも貢献していきます。また、2019年5月に「TCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース)による提言」への賛同を表明しました。気候変動が事業に与える機会とリスクを特定・評価し、経営戦略に反映するとともに、適切な情報開示を進めています。



14. 廃プラスチックを選別し、再生ペレットとして再資源化する技術と新たな再生原材料の用途開発を推進することで、プラスチックによる海洋汚染の防止に貢献しています。

事業の全体像

グループ丸で目指すサーキュラーエコノミーの実現

資源循環事業

廃棄物や資源物のリユース・リサイクル・リマニュファクチャリングを進めることで、限られた資源の有効活用と廃棄物の削減に取り組むとともに、廃棄物から再生原材料を製造し、新たな価値を世の中に提供しています。

グローバルトレーディング事業

日本を含めた世界各地で発生する金属スクラップ・その他資源物を多国間で流通させるとともに、日本製中古車や中古車部品をはじめとする中古品をグローバル市場に展開しています。

- 株式会社 NEWSCON
- 株式会社 3WM

その他事業

障がいのある方の就業や地域生活などにおける自立支援をサポートする「障がい福祉サービス事業」と、企業の環境戦略・CO₂削減計画の支援などを行う「環境経営コンサルティング事業」を展開しています。

資源循環事業



エンビプロ
グループ



障がい福祉
サービス事業



環境経営
コンサルティング事業

その他

障がい福祉サービス事業

- 株式会社 アストコ

環境経営コンサルティング事業

- 株式会社 ブライトイノベーション

- 株式会社 エコネコ
- 株式会社 クロダリサイクル

- 株式会社 しんえこ
- 株式会社 東洋ゴムチップ

持分法適用関連会社

- 株式会社 アビゾ
- 株式会社 富士エコサイクル

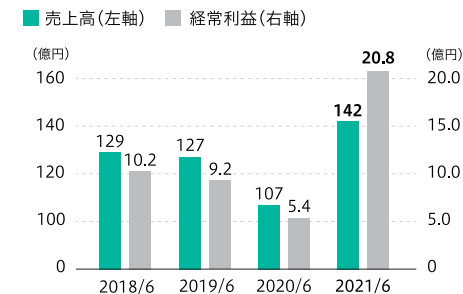
リチウムイオン電池リサイクル事業

リチウムイオン電池をはじめとする充電式電池のリサイクルを通して、ニッケル・コバルトなどのレアメタル（希少金属）の資源循環システムの確立および限りある資源の有効活用に貢献しています。

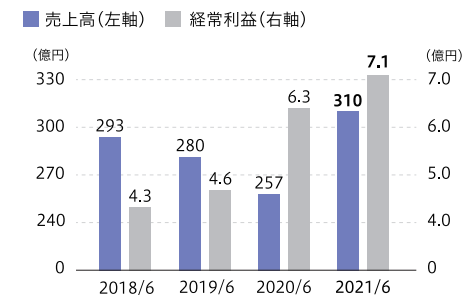
- 株式会社 VOLTA

●業績ハイライト

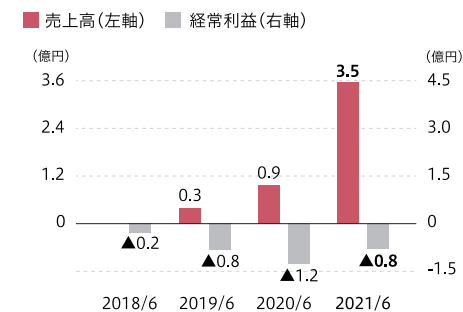
資源循環事業



グローバルトレーディング事業



リチウムイオン電池リサイクル事業



事業セグメント区分の変更

● 海外事業を行う「グローバル資源循環事業」と「中古自動車関連事業」を「グローバルトレーディング事業」として統合し、シナジーを強化しました。
● 「リチウムイオン電池リサイクル事業」はグループの戦略的事業として、今後予定する湿式製錬などの事業内容・規模感・アライアンスを考慮し、「資源循環事業」から独立させました。